

西南開発地域

---

土地分類基本調査

---

須 崎

5万分の1

国土調査

高知県

1979

## 序 文

国土は国民の生活及び生産を通ずる諸活動の基盤であります。この貴重な国土をいかに有効に利用し、保全してゆくかは、狭い国土の我国にとって最も大きな課題でもあります。

この調査は、土地利用上の基礎である地形、表層地質、土壌の各土地条件、保全条件、利用現況等を科学的、総合的に調査し、行政各分野で策定された諸計画の適正な実施を促進するとともに、地域の特性に応じた国土の利用や規制に関する県や国の諸施策、立案等の基礎資料とするために実施するものです。

昭和40年度に国において「高知」図幅の調査を実施したのを初年度とし、県独自の調査は昭和49年度に「宿毛・土佐中村」図幅を、昭和50年度に「岩松」、「大用」各図幅を、昭和51年度に「田野々」、「土佐佐賀」各図幅を、昭和52年度に「梶原」、「窪川・一子箸」各図幅を、昭和53年度に「須崎」、「新田」各図幅を実施しました。

昭和54年度は「上土居」、「柏島・土佐清水」各図幅を調査し、その後も引き続き各図幅の調査を行い、県全域の調査を完遂する所存であります。

この調査の成果が一般行政上各分野で利用されることはもとより、国民の各層各方面で幅広く活用されることを希望するとともに、資料の収集、調査、図簿の作成等に御協力をいただきました各関係機関並びに担当者各位に対し深く謝意を表します。

昭和54年3月

高知県企画部長 野村元万

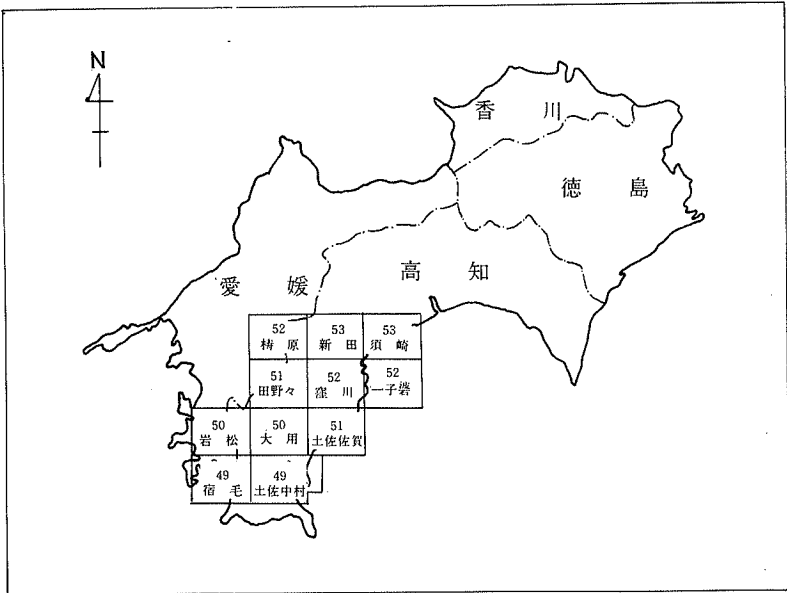
## 調 査 担 当 機 関

|             |               |
|-------------|---------------|
| 総 合 企 画     | 国土庁土地局国土調査課   |
| 総括・調査・編集    | 高知県企画部土地対策課   |
| 地形分類調査      | 高知県地理学研究会     |
| 表層地質調査      | 高知大学理学部(甲藤次郎) |
| 土 壌 調 査     | 高知県林業試験場      |
|             | 高知県農林技術研究所    |
| 関 連 調 査     |               |
| (傾斜・標高区分調査) | 高知県地理学研究会     |
| (水系・谷密度調査)  | 高知県地理学研究会     |
| (防 災 調 査)   | 高知大学理学部(甲藤次郎) |
| (土地利用現況調査)  | 高知県農林部林業課     |
|             | 高知県農林技術研究所    |

# 目 次

|     |           |       |    |
|-----|-----------|-------|----|
| 序   | 文         |       |    |
| 総   | 論         |       |    |
| I   | 位置及び行政区画  | ..... | 1  |
| II  | 地域の概要     | ..... | 3  |
| 各   | 論         |       |    |
| I   | 地形分類図     | ..... | 11 |
| II  | 表層地質図     | ..... | 15 |
| III | 土 壌 図     | ..... | 19 |
| IV  | 傾斜及び標高区分図 | ..... | 26 |
| V   | 水系・谷密度図   | ..... | 27 |
| VI  | 防 災 図     | ..... | 28 |
| VII | 土地利用現況図   | ..... | 29 |

# 調査地域一覽図



総

論

# I 位置及び行政区画

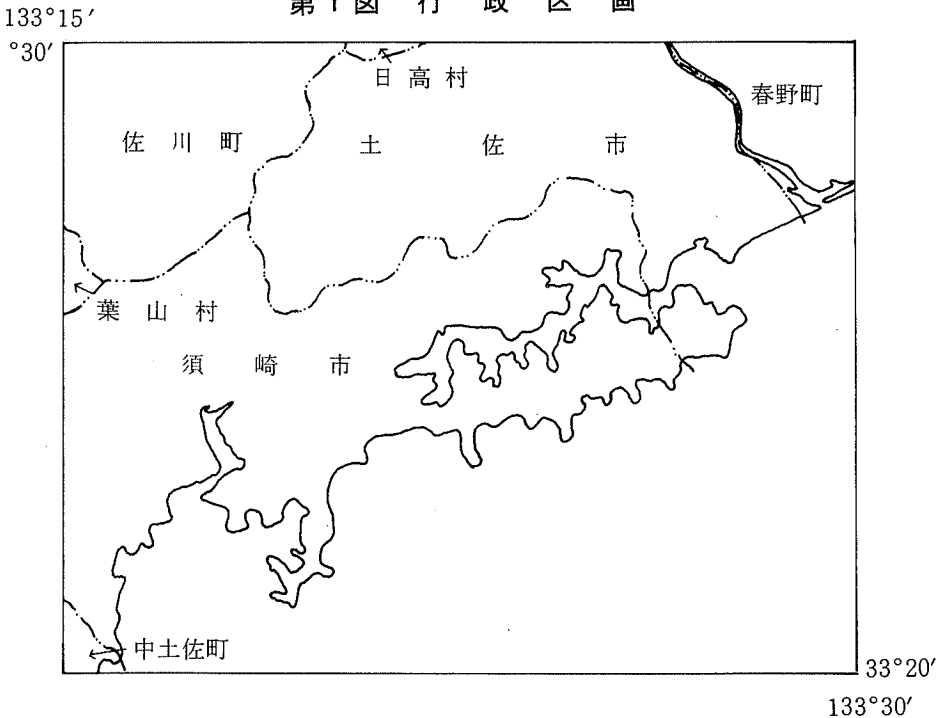
## 1 位置

「須崎」図幅は高知県の中南に位置し、東経  $133^{\circ}15'$  から  $133^{\circ}30'$  まで、北緯  $33^{\circ}20'$  から  $33^{\circ}30'$  までの範囲内の地域である。図幅内面積は  $429.61 \text{ km}^2$  であり、この構成は陸地面積  $251.65 \text{ km}^2$ ，海面面積  $177.96 \text{ km}^2$  である。

## 2 行政区画

今回の調査対象地域は、南東部  $177.96 \text{ km}^2$  が土佐湾で占められているため、北東部から北西部・南西部にかけての全部で2市3町2村の行政区画で構成されている。

第1図 行政区画



第 1 表 市 町 村 別 面 積

| 市町村名          | 図 幅 内 面 積               |         | 市町村全面積<br>B (km <sup>2</sup> ) | A / B (%) |
|---------------|-------------------------|---------|--------------------------------|-----------|
|               | 実数 A (km <sup>2</sup> ) | 構 成 (%) |                                |           |
| 土 佐 市         | 82.33                   | 32.7    | 91.57                          | 89.9      |
| 須 崎 市         | 105.77                  | 42.0    | 136.15                         | 77.7      |
| 吾 川 郡 春 野 町   | 16.70                   | 6.6     | 45.46                          | 36.7      |
| 高 岡 郡 中 土 佐 町 | 2.24                    | 0.9     | 93.20                          | 2.4       |
| ” 佐 川 町       | 42.27                   | 16.8    | 104.39                         | 40.5      |
| ” 葉 山 村       | 1.43                    | 0.6     | 66.79                          | 2.1       |
| ” 日 高 村       | 0.91                    | 0.4     | 44.50                          | 2.0       |
| 計             | 251.65                  | 100.0   | 582.06                         | 43.2      |



## Ⅱ 地域の概要

### 1 特 性

当地域は高知県の中南部に位置し、図幅北東部から南西部にかけてのリアス式の優れた地形的条件を備えた浦ノ内湾・野見湾・須崎湾等海岸一帯は美しい自然に囲まれ、沿岸漁業や栽培漁業のさかんな地域である。

陸地にあつては、図幅北東部の一級河川仁淀川を狭む中規模の平野部には園芸のさかんな春野町や土佐市が位置し、西南部には重要港湾須崎港を基盤にして商工業の発展途上にある須崎市が控え、かつ、二級河川桜川や新荘川の流域に開けた小規模な平野部では農業がさかんである。

また、西北部には中小河川に囲まれ、水量豊かな平野部があり、古来文教のさかんな佐川町が位置している。

### 2 人 口

当図幅内関係市町村の人口は昭和50年10月1日現在111,275人で、同世帯数は31,181世帯である。これを前回国勢調査時の昭和45年と対比すると、人口で151人の、世帯数で1,459世帯の増加となっている。

この内容は、東部の土佐市が人口で774人、世帯数で615世帯の、同春野町が人口で184人、世帯数で178世帯の増加をみているほか、他の市町村ではいずれも人口が減少し、須崎市の31人(0.1%)、佐川町の80人(0.5%)をはじめ、最高は西部の葉山村で323人(5.8%)となっている。

第 2 表 市 町 村 別 人 口

| 区分<br>市町<br>村名 | 人 口・世 帯 数 |             |           |             | 増 減 数      |             | 増加率(%)  |       |
|----------------|-----------|-------------|-----------|-------------|------------|-------------|---------|-------|
|                | 50 年      |             | 45 年 (A)  |             | 50年-45年(B) |             | (B)÷(A) |       |
|                | 人口<br>(人) | 世帯数<br>(世帯) | 人口<br>(人) | 世帯数<br>(世帯) | 人口<br>(人)  | 世帯数<br>(世帯) | 人口      | 世帯数   |
| 土佐市            | 30,679    | 8,505       | 29,905    | 7,890       | 774        | 615         | 2.6     | 7.8   |
| 須崎市            | 31,019    | 8,803       | 31,050    | 8,479       | △ 31       | 324         | △ 0.1   | 3.8   |
| 春野町            | 13,711    | 3,699       | 13,527    | 3,521       | 184        | 178         | 1.4     | 5.1   |
| 中土佐町           | 8,901     | 2,590       | 9,090     | 2,530       | △ 189      | 60          | △ 2.1   | 2.4   |
| 佐川町            | 15,694    | 4,500       | 15,774    | 4,251       | △ 80       | 249         | △ 0.5   | 5.9   |
| 葉山村            | 5,223     | 1,425       | 5,546     | 1,447       | △ 323      | △ 22        | △ 5.8   | △ 1.5 |
| 日高村            | 6,048     | 1,659       | 6,232     | 1,614       | △ 184      | 45          | △ 3.0   | 2.8   |
| 計              | 111,275   | 31,181      | 111,124   | 29,732      | 151        | 1,459       | 0.1     | 4.9   |

資料 国勢調査による。

### 3 気 候

当図幅内にある須崎市鍛冶町の須崎観測所(東経133°18'・北緯33°23'・海拔3m)における昭和52年の気象概況は第3表のとおりである。年間平均気温17.3°・年間降雨総量2,570mmで、温暖・多雨型の気候であり、植物の生育には最も適している。

第 3 表 須崎観測所気象概況

| 区分<br>月別 | 気 象 (°C) |      |      |      |            |      |            | 降 雨 量 (mm) |     |            |
|----------|----------|------|------|------|------------|------|------------|------------|-----|------------|
|          | 平 均      |      |      | 極    |            |      |            | 総量         | 日最大 | 起日<br>(月日) |
|          | 平均       | 最高   | 最低   | 最高   | 起日<br>(月日) | 最低   | 起日<br>(月日) |            |     |            |
| 年        | 17.3     | 22.2 | 12.5 | 36.3 | 7/14       | -6.0 | 2/17       | 2,570      | 160 | 11/16      |
| 1月       | 5.6      | 11.2 | 0.0  | 15.0 | 27         | -3.3 | 7          | 15         | 7   | 26         |
| 2月       | 5.6      | 11.1 | 0.0  | 18.5 | 26         | -6.0 | 17         | 48         | 22  | 25         |
| 3月       | 11.3     | 16.2 | 6.3  | 22.0 | 15,17      | -3.5 | 6          | 281        | 80  | 22         |
| 4月       | 16.4     | 21.6 | 11.1 | 25.5 | 20,21      | 3.0  | 1          | 229        | 51  | 6          |
| 5月       | 18.9     | 23.6 | 14.2 | 28.5 | 21         | 9.5  | 16         | 245        | 68  | 14         |
| 6月       | 22.8     | 26.7 | 18.8 | 30.9 | 12         | 16.0 | 6,15       | 480        | 90  | 15         |
| 7月       | 27.2     | 31.1 | 23.3 | 36.3 | 14         | 22.0 | 3, 8       | 141        | 60  | 9          |
| 8月       | 27.5     | 31.3 | 23.5 | 33.0 | 5          | 20.5 | 15         | 393        | 106 | 24         |
| 9月       | 25.5     | 29.4 | 21.7 | 31.5 | 12         | 17.0 | 20         | 351        | 99  | 28         |
| 10月      | 20.8     | 26.4 | 15.3 | 29.4 | 2          | 12.0 | 23         | 92         | 46  | 2          |
| 11月      | 15.8     | 20.5 | 11.0 | 26.7 | 2          | 1.5  | 24         | 237        | 160 | 16         |
| 12月      | 10.7     | 17.0 | 4.3  | 23.0 | 16         | -0.5 | 27         | 58         | 19  | 30         |

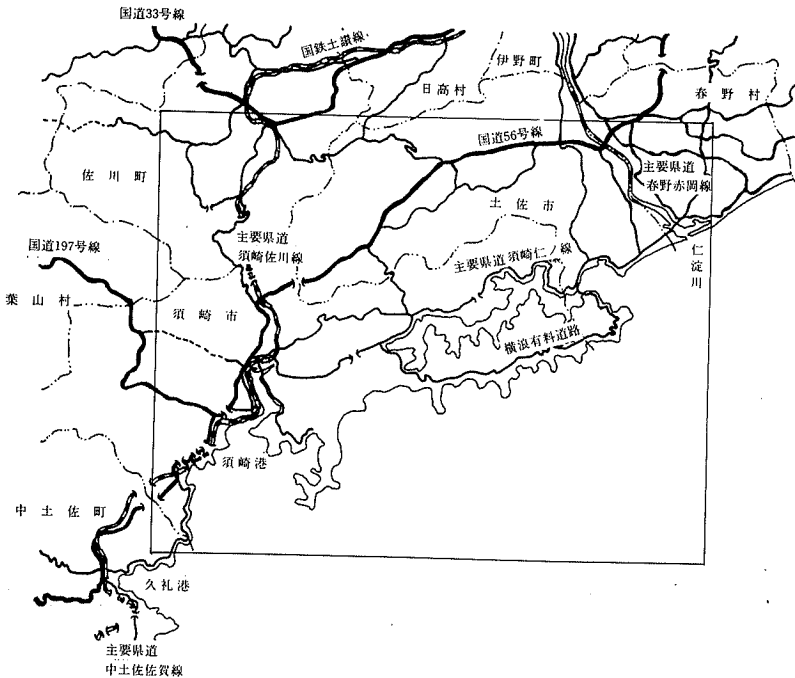
資料 高知県気象年報による。

#### 4 交 通

当図幅内には、一般国道 56 号線が東北部から西南部にかけて貫通し、北部の一部に一般国道 33 号線が、西南部の一部に一般国道 197 号線が含まれている。主要県道は、一般国道 56 号線の南側を平行して貫通し、また、東部と中西部から北部にかけての両端に平行して通っている。鉄道は、西北部から西南部にかけて土讃線が開通している。

さらに、これらの一般国道や主要県道と連結した十数路線の一般県道があり、交通網は良好に整備されている。特に、中央南部の海岸沿いの山頂を縦断する有料道路横浪スカイラインは観光道路として次第に脚光を浴びてきている。

## 第2図 道路・鉄道位置図



## 5 産 業

当図幅関係市町村の産業別就業者状況は、第4表のとおりであり、構成率は第一次産業が34%、第二次産業が24%、第三次産業が42%となっているが、当図幅に占める須崎市及び土佐市の合計面積率は90%であり、産業構造を代表している。また、当図幅関係市町村の土地利用現況は、第5表のとおりであり、その構成率は林野66.8%・耕地13.9%・その他19.3%となっているが、当図幅内に限ってみると、須崎市・土佐市を除く他町村は比較的  
に林野面積が多いが、これらの町村の面積構成率が小さいため、さらに林野面積率が減少することとなる。

生産物としては、林業にあっては素材生産(ヒノキ・スギ)が、漁業にあっては各種各地漁業組合のもとで野見湾や浦ノ内湾での栽培漁業や沿岸・定置網・近海の各漁業がさかんであり、農業にあっては春野町・土佐市・須崎市の海岸沿い平坦地での促成園芸の栽培が、土佐市や須崎市での柑橘類の栽培がさかんであり、その他地域にあっては、田畑を有効に活用して農作物の効率的な収穫に努めている。

特異なものとしては、近年の経済界不況の中において、土佐市での家庭紙を中心とした製紙業や大型貨物船の出入に適した重要港湾須崎港での搬入・搬出の便さに伴う須崎市での製材業やセメント製造業の地味な存続が認められる。

また、近年は風光明媚なりアス式海岸を擁する横浪県立公園や須崎湾県立公園を中心としたレジャー産業も台頭しており、横浪半島の山頂付近には広大なゴルフ場も開業するに及んだ。

## 6 開発の現状と方向

当地域の関係した高知県の主要な開発プロジェクトとしては、四国西南山地大規模林業圏開発事業及び横浪大規模年金保養基地事業がある。

### (1) 四国西南山地大規模林業圏開発事業

高知県の中西部と愛媛県の南部にわたる722,000 haを対象地区とし、昭和60年を目標年次として、次の事業目的を掲げている。

- ① 拡大造林の推進並びに建築用材等の供給基地化
- ② 就労の場の拡大並びに労働環境の改善

第 4 表 産 業 別 就 業 者 数

| 区<br>分  | 総<br>計<br>(人) | 第 1 次 産 業 (人) |        |     |       | 第 2 次 産 業 (人) |                 |                 | 第 3 次 産 業 (人) |                   |                 |                 | 不<br>明<br>(人) | 構 成 比 (%)       |           |           |
|---------|---------------|---------------|--------|-----|-------|---------------|-----------------|-----------------|---------------|-------------------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------|-----------|-----------|
|         |               | 計             | 農 業    | 林 業 | 水 産 業 | 計             | う<br>ち<br>建 設 業 | う<br>ち<br>製 造 業 | 計             | う<br>ち<br>卸 小 売 業 | う<br>ち<br>運 送 業 | う<br>ち<br>輸 送 業 |               | う<br>ち<br>サービス業 | 第 1 次 産 業 | 第 2 次 産 業 |
| 土 佐 市   | 15,821        | 5,838         | 4,822  | 17  | 999   | 3,500         | 1,084           | 2,348           | 6,463         | 2,514             | 790             | 2,273           | 20            | 37              | 22        | 41        |
| 須 崎 市   | 15,269        | 4,351         | 3,225  | 36  | 1,090 | 3,830         | 1,408           | 2,242           | 7,070         | 2,857             | 1,070           | 2,112           | 18            | 29              | 25        | 46        |
| 春 野 町   | 7,631         | 3,376         | 3,283  | 11  | 82    | 1,422         | 499             | 899             | 2,825         | 960               | 271             | 1,000           | 8             | 44              | 19        | 37        |
| 中 土 佐 町 | 4,186         | 1,481         | 753    | 66  | 662   | 1,026         | 419             | 600             | 1,673         | 649               | 242             | 515             | 6             | 35              | 25        | 40        |
| 佐 川 町   | 8,084         | 2,594         | 2,541  | 52  | 1     | 1,974         | 884             | 972             | 3,495         | 1,134             | 534             | 1,395           | 21            | 32              | 25        | 43        |
| 葉 山 村   | 2,433         | 944           | 865    | 78  | 1     | 839           | 445             | 372             | 644           | 241               | 90              | 224             | 6             | 39              | 35        | 26        |
| 日 高 村   | 2,867         | 846           | 834    | 12  | —     | 855           | 455             | 385             | 1,257         | 425               | 154             | 478             | 9             | 29              | 29        | 42        |
| 計       | 56,391        | 19,430        | 16,323 | 272 | 2,835 | 13,446        | 5,194           | 7,818           | 23,427        | 8,780             | 3,151           | 7,997           | 88            | 34              | 24        | 42        |

資料 国勢調査による。

第 5 表 土地利用の概況

| 区分<br>市町<br>村名 | 総面積<br>(ha) |       | 耕地面積 (ha) |       |     |        | 林野面積 (ha) |           |              |        | その他<br>面積 (ha) |      | 構 成 比 (%) |  |
|----------------|-------------|-------|-----------|-------|-----|--------|-----------|-----------|--------------|--------|----------------|------|-----------|--|
|                | 計           | 田     | 畑         | 樹園地   | 採草地 | 計      | 現況森林面積    |           | 森林以外<br>の草生地 | 計      | 耕地率            | 林野率  | その他<br>率  |  |
|                |             |       |           |       |     |        | 計         | うち<br>人工林 |              |        |                |      |           |  |
| 土佐市            | 2,210       | 1,500 | 42        | 657   | 10  | 4,609  | 4,609     | 1,883     | —            | 2,338  | 24.2           | 50.3 | 25.5      |  |
| 須崎市            | 1,410       | 938   | 134       | 339   | —   | 9,784  | 9,783     | 4,877     | 1            | 2,421  | 10.3           | 71.9 | 17.8      |  |
| 春野町            | 1,440       | 1,200 | 38        | 200   | —   | 1,646  | 1,646     | 319       | —            | 1,460  | 31.7           | 36.2 | 32.1      |  |
| 中土佐町           | 409         | 319   | 53        | 37    | —   | 8,117  | 8,117     | 3,096     | —            | 794    | 4.4            | 87.1 | 8.5       |  |
| 佐川町            | 1,450       | 1,070 | 98        | 269   | 10  | 6,600  | 6,600     | 4,121     | —            | 2,389  | 13.9           | 63.2 | 22.9      |  |
| 葉山村            | 550         | 205   | 109       | 236   | —   | 5,424  | 5,404     | 3,878     | 20           | 705    | 8.2            | 81.2 | 10.6      |  |
| 日高村            | 636         | 412   | 47        | 177   | —   | 2,715  | 2,675     | 1,340     | 40           | 1,099  | 14.3           | 61.0 | 24.7      |  |
| 計              | 8,105       | 5,644 | 521       | 1,915 | 20  | 38,895 | 38,834    | 19,514    | 61           | 11,206 | 13.9           | 66.8 | 19.3      |  |

資料 1 総面積は昭和 52 年全国都道府県市区町村別面積調による。

2 耕地及び林野面積は第 23 次高知農林水産統計年報による。

- ③ 木材関連産業の近代化並びに木材流通の合理化
- ④ 水資源の涵養並びに防災面での森林機能の整備
- ⑤ 林道網の整備拡充
- ⑥ 自然の保護並びに森林レクリエーションエリアの整備

(2) 横浪大規模年金保養基地事業

全国で11か所の大規模年金保養基地が年金福祉事業団により設置運営されることとなり、当図幅南部の横浪半島周辺に3基地を設置しようとするものであり、事業目的・設置場所・主な施設は次のとおりである。

① 事業目的

年金受給者並びに一般勤労者に健全な余暇利用の場を提供する。

② 基地設置場所・面積

土佐市に1か所、須崎市に2か所、合計3か所で総面積約340ha（土佐市竜地区約40ha・須崎市光松地区約265ha・同坂内地区約35ha）である。

③ 主な施設

年金福祉事業団により、既取得の用地に昭和55年を着工目標年次として、次の諸施設が構築される計画である。

ア 教養文化施設

イ 健康増進施設

ウ レクリエーション施設

エ 宿泊・飲食施設

オ 管理施設



# 各 論

# I 地形分類図

## 概 説

本地域は、大地形区分からいって、南四国中央低地西南部を占め、図幅としては、既刊の「新田」図幅の東側に位置している。南四国中央低地は、基盤の地体構造上の特徴であるSWW-NEE方向の帯状地層配列に支配されて、同方向の地壘山地と地溝性の盆地・低地・湾が土佐湾に向かって順次高度を下げて帯状分布を示す地域である。その配列は、北から佐川・斗賀野の盆地、蟠蛇森・虚空蔵山の山脈、以上が地質学的分類からいう秩父帯で、その南限は仏像構造線で区切られ、それ以南の四万十帯と区分される。この構造線から南は、高岡・弘岡の低地、横瀬山を中心とする山脈、須崎低地・浦ノ内湾の沈降部分、須崎南部の山地から横浪半島につながる山脈、その南が安和・野見湾・甲崎沖の沈降部分と平行配列分布を示す。そしてこれらには全て西高東低の地盤の傾動がみとめられる。本図幅を区分するに先立ち、起伏量区分図、切峯面図を作成しそれらを参考にして次のような地形区分を設定した。

### I 山 地

I a 鶴松森一虚空蔵山山地

I b 横瀬山山地

I c 須崎山地

I d 横浪山地

### II 丘陵・盆地

II a 佐川盆地

II b 高岡一弘岡丘陵

II c 須崎丘陵

II d 浦ノ内丘陵

### III 低 地

III a 高岡一弘岡低地

III b 新居・宇佐低地

III c 須崎・久礼低地

## 1 山 地

### 1-1 鶴松森-虚空蔵山山地 (Ia)

この山地は、南限を仏像構造線によって区切られた東西方向の脈状を呈する地壘性の山地である。そのため南斜面は急峻な大起伏山腹を示し、北側は相対的には緩やかな中起伏山地をかかえている。この山地の地質構造は、東西に带状にのびる秩父帯南帯の主として三壘系に属する虚空蔵山層群である。この地層は、西側の「新田」図幅、北側の「伊野」図幅にも続くもので、それを基盤とする山地も愛媛県の御在所山から高知県の不入山、鶴松森、蟠蛇森、虚空蔵山と連なる分布を示し、そのため地形的にも西南四国を横断する脈状形態を示す地壘山地である。

### 1-2 横瀬山山地 (Ib), 須崎山地 (Ic), 横浪山地 (Id)

これらの山地は、地質的には仏像構造線以南の四万十帯に属する地域で地盤運動の結果、南東方向に最大沈下量を示す傾動性の沈降地域である。これらの山地は、かつての高山部の稜線付近を中心に残存した部分が脈状配列を示して分布するいわゆる低起伏山地である。

本地域は、全体に起伏量が小さいが、特に横浪半島を形成している山地部は小起伏山地が大半を占める地域である。そして沈降山地に海水の進入をみたいわゆるリアス式海岸を呈していて、その南岸は波浪侵食によってみごとな海食崖を形成するに至っている。

## 2 丘陵・盆地

### 2-1 佐川盆地 (IIa)

佐川盆地の形成は、地質的に複雑な地盤運動の結果の産物であるが、それを受けて地形的には、南四国中央低地の西端に位置し、北から越知・佐川・斗賀野の地域に区分できる構造的盆地である。これらは高知平野・伊野-日下低地と連なる地溝帯の西詰にあたる。佐川盆地は佐川地区と斗賀野地区に細分も可能であるが、両者をつなぐものは盆地内を流下する柳瀬川とその支流であり、それは北上して仁淀川本流に注入する逆川となっている。盆地底には、谷底平野としての堆積低地が広がり、小起伏の丘陵が発達している。しかしその一方で河岸段丘の発達は良くない。虚空蔵山の野添付近には、かつて川の内方面から搬出されたと考えられる古い堆

積物が崖錐状または丘陵状に残積して、現在は山麓緩斜面として残存分布している。

## 2-2 高岡-弘岡丘陵(Ⅱb)、須崎丘陵(Ⅱc)、浦ノ内丘陵(Ⅱd)

これら3丘陵地域の成因は、断層運動をともなう地溝性の窪地<sup>あち</sup>に、古い時代に海水の進入などによる地表面の風化・侵食作用が加わり、定高性に富んだ丘陵が形成されたという点で類似している。そのうち須崎丘陵の北部と高岡-弘岡丘陵、そして須崎丘陵の南部と浦ノ内丘陵、南端の安和と野見湾沿岸の丘陵は、それぞれ東西方向に連結するそれぞれに個別の基盤上に形成された丘陵帯であるが、3帯とも東方に向かって高度を下げ、北部では高岡-弘岡低地を、中部では浦ノ内湾の進入をみている。ただし春野町高森山付近は、西方の横瀬山山地の続きであるが、沈降量が大きく、かつての海食台地状の丘陵地域となっている。3丘陵の開析進度は、高岡、弘岡付近で最も進み、浦ノ内西分付近で最も遅れている。

## 3 低地

### 3-1 高岡-弘岡低地(Ⅲa)

この低地は、東西方向に連なる地溝帯性の低地で、北および西側に丘陵地帯が分布するため、その開析された谷底平野が低地の一部を占める。この低地を特徴づけるのは、南下する仁淀川がこの低地を横切る高岡付近に大量の土砂をその河側に突き上げた自然堤防を数条残している点である。そのためこの地溝带状低地を東流する波介川を排水不良河川にし、低湿地を形成させてきている。

一方、弘岡地域では、かつて仁淀川の東流した河道跡に、仁淀川が南部の用石・西畑間に新河道を開いて後、氾濫堆積物を放出し、その上に現在の新川川が沖積低地を形成している平坦面である。

### 3-2 新居・宇佐低地(Ⅲb)

四国山地を南下してきた仁淀川は、運搬してきた大量の土砂を放出するに十分な平地を中・下流にもっていない。そのため大半は土佐湾に放出している。その砂礫の一部は、宇佐・新居をはじめ主として河口東部の長浜・桂浜方面に運ばれ、その沿岸に打ち上げられて砂浜海岸の形成してきている。また新居・仁ノの沿岸は、この浜堤によって仁淀川河口を囲い、特に

仁ノには湖沼をはじめとする後背湿地が形成されてきた。

### 3-3 須崎・久礼低地(Ⅲc)

須崎低地は、多ノ郷・須崎港地区と須崎・新莊地区に分けて特徴をつかむ必要がある。多ノ郷低地および南側の須崎港水域は、地形成因的にみてかつての断層ブロック運動の結果、周辺部に比べて沈降量の大きかった地域である。多ノ郷低地は、その後御手洗川・桜川・押岡川の運搬物によって形成された沖積低地であり、現在でも赤崎町前面に低湿地の分布がみられる。一方、須崎・新莊低地は、新莊川の搬出物のうち砂礫を沿岸潮流によって河口東側に突き上げ、城山に向けて砂州状に堆積させた砂地低地である。そして砂州の発達によって潟湖が形成され、現在も池の内地域はその後背湿地である。安和・久礼低地は沿岸の極小低地である。

(高知市立高知商業高等学校 西 和彦)

## II 表層地質図

### 概 説

本地域は「新田」図幅の東側に位置し、地質学的には西南日本外帯の秩父帯及び四万十帯の一部を占める。秩父帯と四万十帯の境界は仏像構造線である。

本図幅の秩父帯は神原谷衝上線によって中帯及び南帯に分けられ、また四万十帯は四万十帯北帯に位置する。秩父帯中帯には、高岡層群(二畳系中部統)・市ノ瀬層群(二畳系上部統)・神原谷衝上線北側に分布する未命名三畳系(従来高岡層群とされていた)、及び小分布ではあるが、蔵法院層群(三畳系中部)・鳥巢層群(ジュラ系)・山ノ神層(下部白亜系)・未命名白亜系(大平山石灰岩鉞体の北側に分布)などが分布する。

秩父帯南帯には主として三畳系に属する虚空蔵山層群(新田図幅説明書参照)が分布するが、南北両側を断層ではさまれた佐川町川内-土佐市神谷を結ぶ狭長な地帯には未命名古生界(石炭系?)が分布する。

四万十帯には、四万十川層群(白亜系)に属する堂が奈路層・半山層及び須崎層が分布する。このほか、段丘堆積物・斜面堆積物および谷底平野・河川沿いの低地に沖積層が分布する。

本図幅の調査にあたり、高知大学の田代正之氏に御協力頂いた。付記して謝意を表する。

### 各 論

#### 1 未固結-半固結堆積物

##### A 低地堆積物

##### 1-1 礫・砂 (gs)

現在の海岸に分布する海浜堆積物であり、主として礫及び砂からなる。

##### 1-2 砂・礫 (sg)

仁淀川河床などに分布する現在の河川堆積物であり、主として砂及び礫からなる。

##### 1-3 砂・礫・泥 (sgm)

各河川の流路ぞいに見られる狭小な沖積平野及び谷底平野堆積物であり砂・礫及び泥などからなる。

## B 段丘堆積物

### 1-4 礫・砂(低位段丘堆積物)(g1)

佐川・斗賀野盆地周辺及び須崎港に注ぐ桜川・新莊川沿いにみられ、礫・砂などからなる。

### 1-5 礫・砂(中位段丘堆積物)(gm)

佐川・斗賀野盆地周辺及び桜川上流の国見付近にみられ、礫・砂などからなる。

## C 斜面堆積物

### 1-6 角礫・砂・泥(t)

虚空蔵山の北麓の斗賀野盆地南側にチャート角礫及び砂・泥などからなる斜面堆積物があって、恐らく古崖錐堆積物であろう。

## 2 固結堆積物

### 2-1 主として泥岩(m)

秩父帯では、鳥巢層群に発達し、しばしばレンズ状の石灰岩をはさんでいる。また小分布をなす蔵法院層群も主として泥岩からなる。

四万十帯では、堂が奈路層及び須崎層によく発達するが、前者には石灰岩小レンズを、また後者には薄い帯状の赤色泥岩・チャートを挟在している。

### 2-2 泥岩がち砂岩との互層(al1)

秩父帯では、高岡層群・市ノ瀬層群などに発達している。また四万十帯では比較的広く分布しており、時々赤色泥岩をはさむ。

### 2-3 砂岩がち泥岩との互層(al2)

秩父帯では南帯の虚空蔵山層群及び神原谷衝上線北側の未命名三疊系によく発達しており、石灰岩及びチャートを比較的頻繁に挟在している。四万十帯では、半山層及び須崎層に広く分布しており、時々赤色泥岩・チャートの薄層をはさむ。

### 2-4 主として砂岩(s)

秩父帯では、下部白亜系に発達しており、しばしば礫質の部分がある。四万十帯では、半山層及び須崎層に広く分布する。四万十帯の砂岩は、一般に粗粒ないし中粒で黒色泥岩の破片を含むことが多い。

## 2-5 石灰岩(1s)

秩父帯では、高岡層群に属する大平山に石灰岩の大鉱体があり、また鳥巢層群にはしばしばレンズ状の石灰岩体を挟在し、また虚空蔵山層群には大小のレンズ状乃至層状の石灰岩体を挟在しチャートを伴う場合が多い。四万十帯では、堂が奈路層に石灰岩の小レンズ状体がある他は、須崎層に属する須浦・山崎鼻などに石灰岩の小レンズ状体が知られている。

## 2-6 チャート(ch)

秩父帯では、比較的厚いチャートが虚空蔵山層群および高岡層群に発達する。色は褐色・暗灰色・赤色などを呈する。無層理塊状～板状などのさまざまな産状を示すものがある。

四万十帯に挟在されるチャートは、一般に薄層で帯状に発達し赤色～緑色または褐色を呈する。これらのチャートは、特に図示してはいないが、しばしば玄武岩質凝灰岩に漸移する場合がある。

## 2-7 赤色泥岩(Rm)

四万十帯の赤色泥岩は、赤紫色ないし赤褐色を呈し、一般に薄層で、数m内外の層厚を示すことが多く、砂岩泥岩互層および泥岩層中にしばしば発達している。

## 2-8 礫岩(cg)

秩父帯の鳥巢層群(いわゆる七良谷層)・虚空蔵山層群及び下部白亜系にしばしば発達して分布する。四万十帯からは、所々にその分布が知られているにすぎない。

## 応用地質

鉱床：現在稼行中の主要な鉱床としては、大平山(高岡層群)・鳥巢(鳥巢層群)及び勝森(虚空蔵山層群)の石灰岩が開発されている。

### 文 献

- 甲藤次郎(1952)：四国外帯の時代未詳層群に関する研究-第2報 高知県高岡郡内における新観察，高知大学研究報告，自然科学，No.2  
甲藤次郎・小島丈児・沢村武雄・須鎗和己(1960, 1961)：20万分の1高知県地質鉱産図及び同説明書，高知県  
甲藤次郎(1969)：「高知県の地質」，高知市民図書館



甲藤次郎・須鎗和巳・鹿島愛彦・橋本勇・波田重熙・三井忍・阿子島功(1977)  
：20万分の1高知営林局管内(四国)表層地質図，高知営林局

甲藤次郎(1979)：5万分の1表層地質図「新田」図幅ならびに同説明書，高  
知県

(高知大学理学部 甲藤次郎)

### Ⅲ 土 壤 図

#### 1 山地及び丘陵地の土壌

##### 概 説

本図幅には、蟠蛇森(769.3m)、虚空蔵山(674.7m)が見られるが、分布する土壌の性質からみれば、完全に海岸低山地帯に包含されている。本図幅は、新莊川、桜川の流入する須崎湾地帯と、仁淀川の最下流部波介川流域の高岡低山地帯の海岸に横浪三里を挟んだ浦ノ内丘陵地からなる、海岸低山地帯である。部分的に褐色森林土の分布が見られるが、主体は赤褐系の褐色森林土を混在する黄褐系の褐色森林土の広い分布が特徴である。本図幅では分布の見られる褐色森林土を含め、やや生産力の劣る土壌の分布が多く見られる。

##### 1-1) 砂丘未熟土壌

###### 入 野 統

海岸に発達した砂丘に見られる砂礫層のみの乾燥の強い瘠悪な土壌である。一般にはA-C層の発達が見られる程度であり、クロマツの生育が考えられるが、防潮林の造成にも特殊な技術的配慮が必要な土壌である。

##### 1-2) 乾性褐色森林土壌

###### 富山1統

一般的な峰筋を中心に分布の見られる土壌である。腐植層の発達が見られるが、特にH層又はF-H層の発達が多く見られる。この地域でも民有林の多くは林地の粗放な扱いが原因で、腐植層は破損された地区が多い。一般的にはA層の発達が認められる地区が多く、生産性は概して良好である。

###### 中筋1統

海岸低山地の急傾斜の峰筋を主体に分布の見られる土壌である。腐植層の発達は認められるが、民有林地では、破損された部分が多い。A層の発達は劣っており、B層の発達も浅い部分が多く、更に受蝕傾向の強い地区が多い。この土壌の生産性は劣っており、分布の見られる位置的条件により、保安的機能を中心とした施業の必要な地区が多い。部分的には黄褐系の色調の土壌が点在する。

## 1-(2) 褐色森林土壌

### 富山2統

山腹斜面上部及び西・南斜面に多く見られる土壌である。発達の弱い腐植層が見られるが、民有林地では破損された地区が多い。A層の発達は良好であり、土壌層の堆積も軟らかく、生産性は良好で、ヒノキの人工林には好適の土壌である。急傾斜地にあっては、土壌層の堆積が不安定であり、表土の移動が見られるので注意が必要である。

### 富山3統

北面の山腹斜面下部から谷筋にかけての相対的に緩傾斜の部分に分布の見られる土壌である。一般的には腐植層の発達は見られないが、A層の発達は極めて良好であり、土壌層の堆積も軟らかく、生産性は極めて良好であり、スギの造林には好適の土壌である。ヒノキの造林にはやや過湿の条件を持つ地区があるので、注意が必要である。

### 中筋2統

低山地の山腹斜面および谷筋部に分布の見られる土壌である。地表には発達の弱い腐植層が見られるが、民有林地では破損された地区が多い。A層の発達は良好であるが、土壌層の堆積は、一般的にやや堅く、ヒノキの造林には適した土壌である。急傾斜地が多く土壌層の堆積が不安定であり、表土の移動が見られる地区が多いので、林地の取扱いには注意が必要である。部分的には、黄褐色系の色調の土壌が点在する。

## 1-(3) 褐色森林土壌(黄褐色)

### 中筋3統

丘陵地及び低山地の峰筋で、相対的な緩傾斜地に分布の見られる土壌である。腐植層の発達は見られるが、民有林地では破損された部分が多い。黄褐色系の性質が強く見られる土壌であるが、部分的には赤褐色系の性質も残されており、さらに褐色森林土の色調の部分も混在している。この3者の出現と地形との関連は概略次のとおりである。(1)赤褐色系、峰筋中央部で緩傾斜の部分に狭小な分布が見られる。(2)黄褐色系、峰筋で傾斜がやや急な部分および、峰筋の中央部から斜面を下った部分に分布が見られる。(3)褐色森林土、傾斜の急な部分および斜面の下部に分布がみられる。この土

壤の地区では、一般的に土壌層は深い、堆積は堅密な地区が多い。A層の発達はやや弱い、ほとんどの地区で見られ、生産性は概して良好である。

#### 中筋4統

丘陵地及び低山地で、相対的な緩傾斜地の山腹斜面および谷筋部に分布の見られる土壌である。弱い腐植層の発達が見られるが、民有林地では破損された地区が多い。黄褐色系の性質が見られる地区が多いが、褐色森林土の色調の部分と混在している。黄褐色系の性質の地区は、相対的な緩傾斜地に見られ、山腹斜面の上・中部の分布が多い。褐色森林土の地区はやや傾斜の急な部分および山腹斜面下部や谷筋の分布が多い。ヒノキの造林には適している。

#### 1-(4) 褐色森林土壌(赤褐色系)

##### 筆山統

赤色風化の影響が残された土壌で、地表には薄い腐植層は見られるが、破損された地区が多い。一般にA層は色が淡く、層厚も薄く、B層およびC層の色調は赤味が強く、土壌層の堆積は堅密である。土壌の生産力は低い、分布は丘陵地形等の緩傾斜地に限られているので、耕耘・施肥による土地利用には適している。

### 2 台地および低地の土壌

#### 概 説

本図幅は土佐市、須崎市および佐川町の主要部分と、春野町および日高村の一部を含んでいる。農地のほとんどが水田であって畑地は少ない。水田の主体は須崎市、土佐市、佐川町および春野町に分布する沖積土壌である。その大部分が灰色低地土(乾田)であるが、海岸沿いの低地および盆地状地形の低地には一部グライ土壌(湿田)が存在する。灰色低地土のなかには、下層に黒ボク(黒色火山灰)の存在するものがある。畑土壌は海岸および河川沿いに砂丘未熟土が分布するほかは全て褐色森林土に属する。水田の土壌類型は16、畑地のそれは2である。

#### 2-(1) 砂丘未熟土壌

##### 内灘統(十市浜統)

河川氾濫地または海岸浜堤および海岸沿いの砂堆、砂州ならびに砂嘴などの微高地に分布する粗粒質土壌である。母材の堆積様式は河成または海

成堆積である。表層における腐植の集積は少なく、土層の分化はきわめて弱い。下層土は一般に彩度の低い黄褐色から灰褐色、ときには灰色を呈することもある。地下水位は低く排水は良好ないし過良であり、断面の少なくとも1 m以内には斑紋結核などの沈積物は認められない。また礫層もない。有機物、塩基の補給と灌水施設の整備を要する。土佐市の海岸沿いに分布する。

## 2-(2) 細粒褐色森林土壌

### 岳辺田統(馬越, 徳王子-1, 栗の木-1統)

細粒褐色森林土に属する畑土壌である。表層に腐植層はなく、下層土の土色は黄褐色であって有効土層は深く、1 m以内に礫層はない。土性は細粒質で堆積様式は崩積、母材は非固結堆積岩からなる。ほぼ全域に分布する。強粘質のため過湿過干のおそれがあるので注意を要する。

## 2-(3) 黄色土壌

### 常万統

細粒褐色低地土・斑紋ありの水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は黄褐色で1 m以内に砂礫層の出現はない。土性は細粒質で粘いが、鉄、マンガンの透水性は比較的よい。母材が非固結堆積岩の水積土壌である。谷状地形の河川沖積地に分布することが多い。有機物、珪酸塩の補給を要す。須崎市、佐川町などに分布する。

## 2-(4) 細粒灰色低地土壌

### 東和統

細粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色であり、土性は微粒質で粘い。鉄の斑紋はあるがマンガンの結核はない。1 m以内に砂礫層はない。土性が粘い割には透水性がよい。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で須崎市にある。有機物、珪酸塩の補給を要す。

### 四倉統

細粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色であり、土性は微粒質で粘い。鉄の斑紋はあるがマンガンの結核はない。1 m以内に砂礫層はない。下層に構造があって土性が粘い割

には透水性が良い。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、土佐市および須崎市にある。有機物および珪酸塩の補給を要す。

#### **佐賀統**

細粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色であり、土性は微粒質で粘い。鉄の斑紋とマンガンの結核の両方がある。1 m以内に砂礫層はない。下層は構造が発達し土性が粘い割には透水性がよい。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で土佐市、須崎市、春野町、佐川町に分布する。有機物、珪酸塩の補給を要す。

#### **鴨島統**

細粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色であり土性は細粒質で粘い。鉄の斑紋はあるがマンガンの結核はない。下層に構造をもち、比較的透水性がよい。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で須崎市、東津野村にある。有機物、珪酸塩の補給を要す。

#### **宝田統**

細粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色で土性は細粒質である。鉄の斑紋とマンガン結核の両者がある。下層に構造をもち比較的透水性がよい。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、須崎市、土佐市、春野町、中土佐町にある。有機物、珪酸塩の補給を要す。

### **2-(5) 灰色低地土壌**

#### **加茂統**

中粗粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土色は灰色、土性は中粒質で1 m以内に砂礫層はない。鉄の斑紋があり、透水性がよい。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、土佐市にある。有機物、珪酸塩の補給を要す。

#### **清武統**

中粗粒灰色低地土・灰色系の水田土壌である。表層腐植層はなく、下層土の土性は中粒質で、鉄の斑紋とマンガンの結核がある。透水性やや過良である。1 m以内に砂礫層はない。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、

土佐市，春野町にある。有機物，珪酸塩の補給を要す。

## 2-(6) 粗粒灰色低地土壤

### 久世田統

礫質灰色低地土・灰色系の水田土壤である。表層腐植層はなく，下層土の土色は灰色で土性は細粒質で，30～60 cm以下に礫層が現われる。鉄の斑紋があり，土性が粘い割には水持やや過良である。非固結堆積岩を母材とする水積土壤で，昔の河川敷に堆積した土壤である。土佐市，須崎市に分布する。有機物，珪酸塩の補給を要す。

### 国領統

礫質灰色低地土・灰色系の水田土壤である。表層腐植層はなく，下層土の土色は灰色で0～30 cmから砂礫層が現われる。透水性過良である。母材は非固結堆積岩で堆積様式は水積である。昔の河川敷に堆積した土壤で，土佐市，須崎市，春野町，佐川町ほかに分布する。有機物，珪酸塩の補給を要す。

## 2-(7) 灰色低地土壤・下層黒ボク

### 野市統

灰色低地土・下層黒ボクの水田土壤である。表層土は鈹質土壤が主体であるが，下層に腐植質火山灰層を含み，土性は微粒，細粒質で粘く，30～60 cmから礫層が出現する。腐植質火山灰層以外は非固結堆積岩を母材とする水積土壤であって，佐川町に分布する。有機物，珪酸塩の補給を要す。

## 2-(8) 細粒グライ土壤

### 富曾亀統

細粒強グライ土の水田土壤である。表層腐植層はなく，下層土の土色は青灰色で土性は微粒質で粘い。1 m以内に礫層はなく，鉄の斑紋は30 cm以下にはない。グライ層は作土または作土直下から出現し，30 cm以内に地下水の現われる強湿田である。非固結堆積岩を母材とする水積土壤で，土佐市，須崎市および佐川町の低地に分布する。排水対策を要する。

### 西山統

細粒強グライ土の水田土壤である。表層腐植層はなく，下層土の土色は青灰色で土性は細粒質である。1 m以内に砂礫層はなく，鉄の斑紋が30 cm

以内に現われることがある。グライ層が作土または作土直下から出現し、地下水が 30 cm 以内に現われる強湿田である。非固結堆積岩を母材とする、低地の水積土壌で須崎市に分布する。排水対策を要する。

#### 保倉統

細粒グライ土の水田土壌であって表層腐植層はない。表層土の土色は灰色、下層土の土色は青灰色で土性は微粒質で粘い。グライ層は 30～60 cm から現われ、その上には鉄の斑紋がある。地下水位は 70～90 cm である。1 m 以内に礫層の現われることのない半湿田土壌である。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で強グライ土壌に接して分布する。須崎市、土佐市にある。排水対策を要する。

#### 千年統

細粒グライ土の水田土壌である。表層腐植層はなく、表層土の土色は灰色であるが、下層土の土色は青灰色で 30～60 cm からグライ層が出現する。土性は細粒質で比較的粘い。下層に鉄の斑紋がある。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、須崎市の低地に分布する。排水対策を要する。

### 2-(9) グライ土壌

#### 新山統

中粗粒グライ土に属する水田土壌である。表層腐植層はなく、表層土の土色は灰色であるが下層土は青灰色で 30～60 cm からグライ層、70～90 cm から地下水の現われる半湿田である。土性は中粒質で鉄の斑紋がある。非固結堆積岩を母材とする水積土壌で、春野町に分布する。排水対策を要する。

(高知県林業試験場 入交 幸三)

(高知県農林技術研究所 久保田増栄)



## IV 傾斜及び標高区分図

傾斜区分は、2万5千分の1地形図を作業基図とし、これを機械縮図したものである。したがって5万分の1地形図のコンター密度とは必ずしも一致しないが、それよりも詳細である。

傾斜区分図は、土地開発の応用的意義が高いので出来るだけ実際的に細分化し、傾斜量の変化する境界を直径2mm(100m)の範囲まで追跡してある。しかし、最小単位地形の全面が全く同一傾斜面で表現できるというのは低地か台地、または未開析準平面くらいに限られている。例えば尾根の幅員が100mのリミット以下であるような丘陵地などは、その丘頂面を見渡すレベルの勾配は直接記載されず、もっと細かい開析谷両側の斜面勾配が平均化されることになるので、かなり大きい現実の傾斜量となっている。

本図幅における40°以上の急傾斜地は、虚空蔵山・蟠蛇森の南側山腹と、須崎山地・横浪山地の南側の海食崖に代表される。山地部分で最も広い面積を占めるのは、30°～40°傾斜地域であり、丘陵部分では、20°～30°傾斜地域である。緩傾斜地は、山地部にあつては鶴松森-虚空蔵山山地北側斜面と横瀬山山地の鳴郷谷に代表される散在した山頂緩斜面である。一方山麓性の緩斜面は、高岡-弘岡丘陵の開析谷及び虚空蔵山北麓の野添地域に代表される未開析丘陵などである。

(高知市立高知商業高等学校 西 和彦)

## V 水系・谷密度図

水系図は、河幅1.5 m以上の河川の平面形現状を空中写真によって判読して、水系を当該写真上に表示したのち、これを基図に転記し現地調査の結果に基づいて整理し、2万5千分の1地形図を用いて補正して作成したものである。水系図では低地の主要水路及び山地・丘陵地・台地の開析谷を平面形の形態で表示してある。

谷密度図は、水系図を基礎として土地の開析状態を数量的に表現するように、地形図を縦横40等分し、その方眼区画の辺縁を切る谷の数の和を求め、その20等分区画すなわち前述の方眼区画の4区画の和で示した。

本図幅における水系は、図幅北部の仁淀川系と、新莊川に代表される須崎湾に注入する中小河川、浦ノ内湾に注入する小河川に大別される。まず仁淀川水系の中でも佐川盆地を北上する柳瀬川は盆地中の河床勾配は緩く、厚い沖積堆積物の上を流下する逆川である。一方仁淀川本流に最も下流で合流する波介川は、本流の自然堤防に排水口をふさがれていて、流域の割合に比べて広大な低湿地をその中流域にまで広げている排水不良河川である。

図幅南西部に河口をもつ河川としては、東流してきた新莊川が広い谷底平野をもって須崎湾に注入して砂州を形成し、多ノ郷地域には、桜川・御手洗川・押岡川が流出してきて複合三角州を形成するに至っている。

谷密度は、高岡-弘岡丘陵の西端部の積善寺、市野々付近に最も密度の高い開析進行中の河谷が集中し、それに準ずる地域として浦ノ内西分・東分などがある。

(高知市立高知商業高等学校 西 和彦)

## VI 防 災 ・ 図

地沁り・崩壊：秩父帯の佐川・斗賀野盆地周辺は、地質構造の複雑なことで定評があるが、然し地質的に指摘されるような危険箇所は予想されない。これは一般に地形が緩傾斜であるからであろう。ただし小区域であるが、鉢ヶ森に地沁り防止区域がある。恐らく風化した岩質と急傾斜斜面の関係であろう。

四万十帯では仏像構造線に沿う地帯の砂岩が著しく破碎しており、また同砂岩にローモンタイト脈が発達しているので、所により集中豪雨などによる崩壊が予測される。

水害常襲地帯：須崎付近の多ノ郷・池の内はかつての湿地帯であり、排水不良地域である。また波介川流域もかつての湿地帯であり、排水不良地域であるから、それぞれ恒久的な対策が望まれる。特に後者の場合は、戸波より上流域にかけての基盤岩石の風化が一般に進んでいるので、鉄砲水などによる危険が予測される。

(高知大学理学部 甲藤次郎)

## VII 土地利用現況図

### 1 林 地

本地域は、ほぼ県中央部に位置し、海洋性の気候に恵まれた県でも比較的緩傾斜の山地を形成している。森林率は約67%で県平均82%を大幅に下回っている。本地域は土佐湾に面し、海岸線の一部には亜熱帯のシダ類が分布し、樹木では暖帯特有のイスノキ・タブ・トベラ・ウバメガシ・ハマヒサカキ・タイミンタチバナ・ヤブツバキ等の常緑照葉樹とやや内陸にはシイ・アカガシ・ヒサカキを主とした暖温帯常緑広葉樹が分布している。

人工林は、奥地の佐川町方向に行くにしたがって多くなっており佐川町では62%である。おおまかにいえばヒノキの適地が多く、スギは北面ないし北西面の谷筋に分散的に造林されている。

また、天然林は前述の常緑広葉樹とアカマツを上木とする常緑あるいはこれにコナラ・ゴズイ・ツツジ類等の落葉広葉樹を混えた針広混交二次林であり、群状あるいは帯状に分布している。

竹林は須崎市に多く、主として集落周辺に群状に分布している。

また、横浪半島の一部の森林は県立自然公園に指定され県民の自然休養等その公益性は高く評価されている。

### 2 農 地

春野町の水田は普通作水稲の栽培が多いが、その他に水田利用のハウス栽培もさかんであって、キュウリ、ナス、スイカ、メロン、花きなどが生産されている。また、水田利用再編対策の見地から大豆、牧草、そばなどの栽培が多くなってきた。湿田ではイグサの栽培が行われ、県下の主産地をなす。普通畑では露地野菜、果樹園では温州みかんがつくられている。

土佐市の水田は普通作水稲の栽培とともにハウス栽培も行われ、仁淀川沿いの乾田ではキュウリを主体に県下の主要産地の一つになっている。湿田はイグサ栽培がさかんで、春野町とともに県下の栽培面積の大半を占める。普通畑は露地野菜、果樹園は温州みかんの栽培が多い。なお、水田では大豆、そばなどの栽培も行われる。

須崎市の水田も水稲栽培とともにハウス栽培による果菜類の生産が多く、

とくに新莊川および桜川流域のキュウリは、土佐市とともに県下における主産地を形成する。また、大豆、そばなど露地野菜の栽培も多くなっている。普通畑では露地野菜、果樹園は温州みかんが栽培され、太平洋岸の一部にはボンカンがある。

佐川町の水田はほとんどが普通期水稻の栽培であって、ハウス栽培は気象条件が不利なため比較的少ない。しかし、一部ではハウスイチゴの栽培が集中的に行われ、県下の主産地をなす。また、面積は少ないが、大豆、牧草、そばなども栽培されている。普通畑では露地野菜、果樹園では温州みかんの栽培が多い。

(高知県農林部林業課 田中 忠美)

(高知県農林部林業課 坂本 直紀)

(高知県農林技術研究所 久保田増栄)